

一名護市の基盤分野における課題とToBe像

As-Is

内部環境	Strengths (強み)	<ul style="list-style-type: none">● スマートシティの推進に向けて協議会が立ち上がり、県内外の事業者で構成されているコンソーシアム体制を有している● 特定のデータ連携基盤を有していないため、他都市事例を踏まえたより適切な基盤導入を検討することができる
	Weaknesses (弱み)	<ul style="list-style-type: none">● マイナンバー普及率が50%程度と全国普及率を下回る低い水準となっている● データの標準化やオープンデータ化が進んでいない● 第5世代移動通信システム（5G）に基地局整備が全域で整っておらず、市内でデジタルディバイドが生じている● 行政DX化に対する取り組みが遅れている
外部環境	Opportunities (機会)	<ul style="list-style-type: none">● デジタル田園都市国家構想を根拠に、国によるデータ連携基盤（都市OS）を活用したまちづくりに関する支援が進められている● デジタル庁にて、自治体システム標準化やガバメントクラウドの検討が進んでいる● 沖縄県内の社会・経済のDX化に向けた取組や官民データ活用（データの標準化・共有化）に向けた動きがある
	Threats (脅威)	<ul style="list-style-type: none">● 人口減少社会において、限られた経営資源のもとで、効率的・効果的な行政サービス提供が求められている● デジタル時代にふさわしい政策形成・評価のプロセスとして、データに基づく政策評価・決定（EBPM*）対応への機運が高まっている

* EBPM：Evidence-based policy making（証拠に基づく政策立案）

ToBe

コンセプト

行政・市民・企業・観光客がデータ連携基盤を介して繋がることで
利便性が向上するまちづくり（仮）

名護市の
関連計画で
整理された内容

“響鳴都市”名護
人や企業、まちの歴史と未来、最新技術と自然などのあらゆる地域資源が、「もっと輝く名護市を創る」という想いを持って、それぞれの力を発揮（音を奏で）、互いに響鳴させ（ハーモニーを生み出す）その力を最大に引き出す新しいまち

※スマートシティ名護モデルマスタープラン

目指す状態

名護市全体

✓ 行政DX実現により手続きが簡素化されている状態

✓ 市内全域で利用可能な基地局整備（5G）がなされている状態

✓ 収集したデータに基づく政策評価・決定（EBPM）がなされている状態

✓ 都市OS上で、市民に対して一元化されたサービスをワンストップで提供できる状態

市民

✓ 自宅等で手軽に行政手続きができている状態

✓ 情報が手軽に入手できている状態

観光客

✓ 都市OS上で市内情報・サービスを受けている状態

事業者

✓ 他分野のデータを掛け合わせることで、簡単に自社のサービス開発・機能拡充ができている状態

学術機関

✓ デジタル教育・人材育成がなされている状態

✓ 研究室等で関連サービスが開発されている状態